

## 「次の役目へ」

北海道札幌視覚支援学校 小学部 六年

佐藤 泰心

ぼくは、幼稚部の中からお父さんと一緒にJRが見えるところで列車を見たり、撮ったりしていました。その中でもめずらしい列車が来ないか待っているときが一番ドキドキしました。

ぼくが、列車を見てきた中で一番印象に残っているのは、おばあちゃんと江別駅で札幌とあば走を結ぶ特急オホーツクの車両のラストランを見たことです。いつ来るか待っている時からドキドキしていました。JRが近付くと少しはなれたふみ切りからカンカンカンカンと聞こえてきてぼくは、

「来た来た来た来た。」

と、思わず言ってしまった。その後すぐに、特急オホーツクがやってきました。ぼくは、動画を撮りました。あつという間に行ってしまった。車両を見てぼくは、

「かっこいいな。」

と、思いました。

特急オホーツクは役目を終えたけど、アフリカで活やくすることになってほつとしました。

最後にアフリカに行くことになった車両をお母さんとお父さんとぼくで函館の有川埠頭に見に行ってきました。本当は船に乗せる

ところも見たかったけど、台風の影響で船のとう着がおくれていることができず残念でした。アフリカに行っても人を乗せて活やくするそうです。次の役目があって良かったと思いました

## 「ちよつと面倒な見え方」

北海道札幌視覚支援学校 中学部 一年

A・S

私は今も視覚障害を持っています。しかし弱視であり、全く見えないわけではありません。普通の本の文字の大きさはギリギリ読めますがふり仮名だと読めないことがあります。周りが揺れて見えません。弱視の私が日常生活で感じている不便なことについて紹介します。

まずは授業でのノート書きです。先生が書いてくれる黒板の字を書き写しますが、机からだとき黒板の字が見えづらいため、単眼鏡を使います。単眼鏡をのぞいているときはノートが見えなくなり、ノートをとろうとすると今度は黒板の字が見えなくなります。なので、私はできるだけ黒板の字をたくさん暗記するようにしました。ですが書くことが多いと暗記するのが大変です。漢字の書き取りでは、画数が多いほど複雑になっているものが多いので見て書くのが大変です。そのため、漢字を何回も書いて覚えるようにしていますが、

やはり面倒くさいです。

遠くにある時計も見づらいので単眼鏡を使うことがあります。これもやはり面倒くさいです。

テレビを見るときは、少し遠い位置だと小さくて見えないことがあります。そのときは近くでテレビを見ることにしています。

他に、弱視だと下に物があるのになかなか気付けないことがあります。足下に注意するようにしていますが、踏んだ時は痛いのです。

給食中、服を汚してしまったときもなかなか気づけないことがあります。汚れていることを教えてもらっても分からないときは、顔を近づけて見えるようにしています。

車や人に気付きにくいこともあります。廊下を曲がる時には注意し、道路を渡るときは何度も左右を見るようにしています。ぶつかりそうになったときはドキドキします。

料理がしづらい時は周りの人に見てもらいながらやっています。上手にできたら嬉しいです。

このように不便なことは多いですが、対策を立てれば解決できることは意外と沢山あります。

世の中には弱視のことを知らない人がたくさんいます。見え方はその人にしかわかりません。そこで私はどのくらい遠くまで見えるか、視野の広さなども具体的に周りの人に教えていきたいと思えます。またそれを知ってもらってどんな配慮をしてもらえると助かるかも、具体的に伝えられるようにしていきたいと思えます。

## 「文体連の競技について」

北海道函館盲学校 中学部 三年

N

まず、五十m走をしました。五十m走で先生といっしょに走りました。れん習のときよりうまく走れました。

次にソフトボールなげでは二つのことについて、きをつけました。一つ目は、手をすばやくうごかす。二つ目は、たいようにぶつかるくらい高くなげました。やったと思いました。

さいごの、しょうがいぶつ走ではコーンやうしろ歩きやへいきん台をがんばりました。へいきん台はれん習のときよりも小さかったのでむずかしかったです。

## 「事前学習と旭山どうぶつ園の思い出」

北海道旭川盲学校 小学部 一年

山中 大士

さわったものは、キリンのけがわとあたまのほねはこどものキリンのものでした。こどもキリンはしんじやったといっていました。たてなかつたってさがさん(どうぶつ園(えん)の飼育員(し

いくいんさん)はいつていました。たとうとしたんだけど、たてなかつたんだって。キリンのあかちゃんは一にちでたつらしいです。キリンのほねはいちばんたいせつだっていつていました。

ペンギンのはねもさわった。けがわをおりまげながらさわりました。ペンギンのはねはとてもちいさかったです。はねじゃなくて、すごいぶあついじゅうたんみたいでした。ルンバはあのあつさにのれるかな。

オオカミのほねもさわりました。はがグラグラしていた。おにくをたべるためにはがずれてとがっていました。ハサミのようにきるっていつていました。

カピバラのけがわはほうきみたいにかサカサしていました。

社会見学当日

まえのひは、たのしみではやくねました。あさとうこうして、にもつせいをしました。そして、すぐにしゅっぱつのじかんになったので、げんかんにいどうしました。わすれちゃいけないおやつもリュックにいれていきました。

いきのバスはひさもりせんせいとのりました。ひじょうぐちのとなりのせきにすわりました。いすのシートベルトのあたりにレバーがあり、それをひくといすがリクライニングしました。

どうぶつえんについてすぐに、しゅうこうしゃしんをとりました。

た。そのあと、とおくからなにやらどうぶつのなきごえがきこえてきました。「テナガザル」のなきごえでした。テナガザルのなきごえをちかくできくと、とってもびつくりしました。こわくなったので、すぐににげました。

あるくとひざがいたかったので、きゆうけいすることにしました。きゆうけいしてどうせんせいとサルやまにきました。サルはともしずかでした。においもほとんどしませんでした。ゼンマイがついた大きなきかいがあるとおしえてくれました。それがなんだったのかはわすれてしまいました。サルのあそびどうぐなのはわかりません。ぎもんです。そのあと、うさぎをみました。リスはびようきでしんでしまったようです。オオワシもみました。なきごえがカラスをしぶいかんじにしてみたですごかったです。そのあと、フクロウのところにくとひさもりせんせいとそうぐうしました。いっしょにまたきゆうけいスペースまでもどりました。

みんなでおやつをたべました。いちかちゃんとひさもりせんせいに「こずつ」「ひとくちどうぶつかステラ」をあげました。みんなとたべられてとてもおいしかったです。

ふれあいひろばにいどうして、モルモットにさわりました。そうしているうちに、たいふうのようなくもがちかづいてきて、かみなりのおとがちかづき、すごくつよいかぜとあめがふつてきました。ひさもりせんせいのおりたたみかきで大あめにうたれ

てみました。とまることのないあめが、ずっとかさにあたっていました。三十ぶんくらいあめはふっていました。かさにあめのあたるおとがとてもたのしかったです。

あめがようやくあがったので、ひさもりせんせいといっしょにいどうしました。おべんとうとおやつをたべました。そのあとは、どうぶつをみにいきました。シロクマとライオンをみましました。とちゅうでトイレにいきました。シロクマのところではレベーターにのりました。シロクマもライオンもなかなかつたのであまりわかりませんでした。そして、せいもんまでいどうしてバスにのってかえってきました。かえりのバスは、よねざわせんせいといっしょにすわりました。どうぶつえんの一にちはとてもたのしかったです。

## 「ぼくの未来」

北海道旭川盲学校 中学部 三年

菅原 宏哉

僕はもう少しで中学部を卒業します。なので、そろそろ将来について考えたいと思います。高校に入ったらたくさん勉強をします。一番、勉強したいことは、社会です。社会を選んだ理由は、将来、役に立つことをたくさん知りたいからです。もつともつと都道府県

や市町村のことを勉強して、将来お金をためて旅行に行きたいです。一番、旅行に行きたい場所は、もちろん東京です。それは、ぼくの大好きなNHKの会社があるからです。一人でチケットを買って、飛行機に乗り、電車に乗るには社会の勉強が大事だと思っています。

二番目に勉強したいことは、作業学習です。作業学習をしつかりやって、自分のやりたい仕事に就きたいと思っています。

高校で楽しみにしていることは、寄宿舎生活です。たくさんのお友達や、先生方と仲良くなって歌やおどりを楽しみたいです。(もちろん、宿題もします！)

給食も楽しみです。おすしが出るといいなあ。

高校を卒業したら、大学に行けたら行きたいです。アルバイトはセイコーマートの店員か、ニトリの店員、またはミスタードーナツの店員をしてみたいと思っています。

大学で勉強したいことは、「社会科」の勉強をしたいと思っています。あとは、ダンスのトレーニングをしたり、歌の勉強をします。

大学では、友達をたくさん作って、友達とカラオケに行くことがぼくの夢です。

大学を卒業したら、NHKに就職したいです。「おかあさんといっしょ」の番組を仲間と一緒につくりたいです。もらった給料で仲間と一緒にカラオケに行きたいです。

最後に、ぼくは旭川盲学校で三年間過ごしました。この三年間、C組の仲間や先生方と一緒に、給食を食べたり勉強をしたりして、

とても楽しかったです。この旭川盲学校でがんばったことをいかにして、これからも、歌とおどりを楽しくがんばります。

## 祖父と私」

北海道高等聾学校 三年 E組

川島 結衣

今から十三年前の話です。私はいつもおかしが好きだったが買えずにいたときです。そのとき、祖父はいつも気にして、「これほしいのかい？じいちゃん（祖父）が買ってやるからね」と言ってくれて、優しい祖父でした。

小学校に入ったとき、祖父と自転車に乗って公園に行つて、ブランコをいつも押してくれた。中二まで続いたがしかし、祖父は三ヶ月前に病気で亡くなった。

それから、私はいつも祖父の家に行くとき泣いてしまう。あの頃はたくさん遊んで楽しい思い出いっぱいでした。

母は「泣いてばかりだと、じいちゃんは喜ばないよ。だから泣くな。そうしたらじいちゃん（祖父）は喜ぶし、うれしいよ。」と言つて、私は泣くことがなく、祖父に会うことができた。

それからは祖父の家で泣いていない。祖母はいつも「祖父に会つてくれてありがとう。祖父にいつとくね。」と言つた。

祖父に「また会いに行くね。」と言つて、ゆっくり寝かせたい気持ちがありました。

## 「資源の枯渇問題と食品ロス」

北海道札幌聾学校 中学部 二年

遊部 來夢

私は、食品ロス問題について、食料を無駄にしない方策を考えるべきだと思う。世界では、一年に十三億トンの「まだ食べられる食料」が捨てられている。国連環境計画による家庭系食品ロス量ランキングによると、日本の食品ロスは世界で十四番目に多く、まだ食べられる食料が一年間に六百二十万トン捨てられている。これは、東京ドーム約五杯分にあたる量だ。こんなにも食品ロスが多い理由は、主に二つある。一つ目は、小売店での売れ残りや返品、飲食店での食べ残し、売り物にならない規格外品といった事業系食品ロスである。もう一つは、家での料理の作りすぎによる食べ残しや、買ったのに使わずに捨ててしまうこと、料理を作る時の皮のむき過ぎなどの家庭系食品ロスである。これらは、人間が資源を無駄遣いし、枯渇させている例だといえる。このような食品ロスをなくすために、私は次の二つのことを考えた。

一つ目の事業系食品ロスについては、「小売店での売れ残りや返

品が多い問題」に着目した。賞味期限が近くなった食品を、半額に

して売っている様子をスーパーやコンビニでよく見たことがあるが、依然として食品ロス問題は解決しないままだ。そこで私は、近い将来、賞味期限が近い食品をキッチンカーに載せ、焼き芋の屋台のように移動販売を試みるのはいかがかと考えた。二つ目の家庭系食品ロスについては、「買ったのに使わずに捨ててしまうこと」に着目した。私の家では、一週間に一回買い物に行き、食品のまとめ買いをしているのだが、賞味期限内に食材を使い切れないことがある。だからといって、毎日買い物に行くことも難しい。なぜなら、近くにスーパーがなく、遠方に行くにしても車がないからだ。そこで私は、もっと簡単に、一日の食材が手に入らないかと考えた。やはりここでも私は、移動販売車を利用したいと考えた。このような移動販売車があれば、私たちの家庭だけではなく、お年寄りや障がいがあつて、出かけられない人でもすぐ手に入れることができ、なによりも食品ロス問題に貢献できるのではないかと考えた。

これらのことから私は、国語の「モアイは語る」という学習を通して、食品ロス問題について考える良いきっかけとなった。将来地球が、イースター島と同じような運命に遭わないためにも、一人一人が、今ある有限な資源をできるだけ効率よく、長期にわたって利用する方策を考えることが大切だと思う。

「学しゅうはつびょう会、たのしいな」

北海道室蘭聾学校 小学部 一年

森 優隼

十月十四日土曜日、学校のたいいくかんで学しゅうはつびょう会をしました。

はじめのことばをするまえ、ぼくは、「見に来た人のかずは、百人くらいかな。ちよつときんちようするな。だけど、がんばるぞ！」とおもいました。

学しゅうはつびょう会で「王女さまの耳はロバの耳」のげきをするまえ、ぼくは、「きれいにまちがえないように、『どうどうと、ひょうじようゆたかに』のテーマどおりにするぞ！」と気あいを入れました。

はじめのことばをしたとき、ぼくは、「おもったよりもすくないな。七十人くらいしかいないな。なんで、そうれんしゅうのときはきんちようして、本ばんはちよつときかきんちようしないんだろう。もしかして、そうれんしゅうは、はじめてのはつびょうだったからきんちようしたけど、本ばんはそうれんしゅうでれんしゅうしたら、ちよつときかきんちようしないのかな。」とふしぎにおもいました。

パパが「はじめのことばをいうとき、みんなのはく手がおわるのをまわってたんだね、すごいな。」といました。ぼくは、「だっては

く手しているときにしゃべったら、とちゅうからきこえちゃうから、まっていたんだよ。」といいました。

げきするとき、アシのやくでNさんとのかけあいがおもしろかったです。あとは、Nさんとぼくとあわせて、「王女さまの耳はロボの耳」というところもおもしろかったです。がんばったところは、Nさんと目をあわせるところです。どうして目をあわせるかというところ、正めんをむいたままいうと、ことばがバラバラになっちゃうからです。目をあわせると、口も見えるからあわせやすいです。そこをがんばったし、三十日くらいもれんしゅうしたので、本ばんもそれをおぼえてできました。

そうれんしゅうのときは、はじめてはっぴょうしたので、ちよつとしかたのしくなくて、すぐくすぐきんちようしました。だけど、本ばんは、そうれんしゅうでれんしゅうしたから、すぐたのしくて、きんちようもすこししかしませんでした。

ぼくは、たくさんれんしゅうしたから、じょうずにできたし、じしんももてたとおもいます。

## 「楽しかった修学旅行」

北海道室蘭聾学校

小学部 五年

中川 莉緒奈

六月二十九日（木）から三十日（金）まで小樽と札幌に修学旅行に行きました。旅行の中で思い出に残っていることは全部で五つあります。

一つ目は、列車に乗ったことです。南千歳行きの列車でMさんと一緒に先生方の真似と動物の顔真似当てクイズをしたことが楽しかったです。南千歳行きの快速エアポートに乗りかえた後は、松浦先生と高橋先生とMさんと私の四人であっち向いてホイもして盛り上がりました。

二つ目は、とんぼ玉作りです。私は一番初めに作ったのでとてもきんちようしました。目の前で火が燃えていましたが、少しだけボーンとしてしまいました。ガラスの棒を持続けることが大変でも熱かったです。私はペンギンを作ったのですが、作っている最中と完成後では色味がちがっていたので、おどろきました。また、ガラスは高温になると溶けることが分かりました。ちなみに、ペンギンは高橋先生とおそろいです。高橋先生と私が作ったペンギンの顔がちがいますが、とてもかわいく作ることができてよかったです。

三つ目は、堺町通り散策です。まず、ヌーベルバーグ・ルタオ・シヨコラティエでシヨコラとフロマーージュのミックスのソフトクリームを食べました。暑かったので溶けるのが早かったのですが、とてもおいしかったです。次は、福ろうに行きました。いとこはぬいぐるみが好きなので、お土産にねこだんごととりだんごを買いました。最後にオルゴール堂本館とキャラクターハウスに行きました。

オルゴール堂はボルタが置いてありました。ボルタのことは三年生の時に社会で高津先生と一緒に勉強したので覚えていました。私は、「なぜ、小樽のオルゴール堂にあるのだろう。」と思っていました。

四つ目は、テレビ塔です。私はテレビ塔と東京タワーは同じ高さだと思っていました。じっさいにテレビ塔を見てみたら、東京タワーの方が高かったのですが、テレビ塔も近くで見るととても存在感がありました。テレビ父さんの着ぐるみには会えませんでした、置物はあったので、記念に写真をとりました。テレビ塔付近で校長先生がとってくれた四人の写真がとても気に入っています。

五つ目は、一粒庵でラーメンを食べたことです。私は元氣の出るみそラーメンを食べました。校長先生と高橋先生も同じ味のみそラーメンを食べていました。一粒庵のみそラーメンは卵とじが入っていたので、おどろきました。元氣のゆるみそラーメンはふだん食べているみそラーメンよりもスープがのうこうでしたが、とてもおいしかったです。メニュー名の通り、元氣が出ました！

他にも、初めて美術館に行つてステンドグラスや絵画をかん賞しました。初めての場所に行ったり、初めての体験をしたりして楽しい思い出をたくさん作ることができたので、最高の修学旅行になりました。

## 「地球を守るためにできること」

北海道函館聾学校 小学部 六年

三上 ゆづ希

私が函館でお気に入りの場所は、温泉で有名な湯の川の海岸です。毎日学校の行き帰りに電車から眺める景色は最高で、天気の良い日は遠くに青森県が見えます。そんなお気に入りの場所について私から提案があります。それは、「地球を守るために自分ができることを何でもやってみる」ということです。

去年、私たちの学級では、ボランティア活動として、「海のクリーンアップ大作戦」に参加しました。お年寄りから小さな子どもまで百人ぐらいの人たちが集まり、みんなで湯の川の海岸のゴミ拾いをしました。そこで私はひどい光景を見ました。ゴミがあたり一面に散らばっていたのです。特に多かったのがプラスチックゴミやたばこの吸い殻でした。「なぜ、ゴミをここに捨てるんだろう。海の生き物がかわいそうだし、きれいな景色が汚されるなんていやだなあ。」と思いました。

そこで、地球を守るために二つ提案したいことがあります。一つ目は、「プラスチックをなるべく使わない」ということです。なぜなら、日本は一人あたりのプラスチックゴミの発生量が世界で二番目に多い国で、廃棄量も世界二位だからです。日本は物をあまり大事にしない国で、私たちはいつももったいないことをしているんだな

と感じました。これからはプラスチック製品をなるべく使わずに生活したいと思います。例えば、プラスチックに代わる素材として、紙のストローやスプーンを使うようにします。

また、私たちは毎日給食でプラスチックのストローを使って牛乳を飲んでいきます。そこで、ストローを使わないで飲むことを栄養教諭の先生に相談したところ、「ストローを使わないで飲むのは、マナーの問題があるので、小学生のときはストローで飲んでください。」と言われました。私は、給食のときに紙のストローを使ってはどうかと思つたのですが、それを実現するためには、誰が作るのかや費用などが問題になりそうです。

私が二つ目に提案したいことは、「ゴミをポイ捨てしない」ということです。これは、SDGsの十四番目の目標である「海の豊かさを守ろう」につながります。なぜなら、プラスチックゴミが大量に海に捨てられているからです。数年前、ウミガメがプラスチックを飲み込んで死んだ動画が拡散されました。このとき、プラスチックは悪い物だと言われましたが、よく考えてみると悪いのはゴミをポイ捨てする人間の方だと思います。私たちがゴミをきちんとゴミ箱に捨てることによって、豊かな海を守ることができるのではないのでしょうか。

私が提案したいことは、本来ならあたりまえのことです。あたりまえに思えることを積み重ねていくことで、私たちの住む地域は今よりも住みやすいところになると思います。

最後に、私は本の読み聞かせが得意なので、ゴミのポイ捨てについての本をみんなに読み聞かせたいと思つています。学校の図書室で「ポリ袋一枚捨てた」という本を見付けました。この本は、アフリカに住む主人公が、大量に捨てられたポリ袋をリサイクルして財布やバッグにすることで、村のゴミを少しずつ減らすことに成功したという話です。このような本を私が読み聞かせすることで、みんなが環境問題について興味をもつことにつながるかもしれません。

私のお母さんは、高校生のときに「世界子ども水フォーラム」に参加して、水や川にかかわる自然環境を復元・再生するために子どもが行うべきことを全国の中高生と議論したそうです。もう十五年前のことですが、お母さんのグループが提案したことは「自分たちだからこそできることを増やす」ということでした。これは今の私の考えと同じです。お母さんから偶然受け継いだこの考えを、私の子どもや孫たちにもつなげていきたいです。

## 「春の遠足」

北海道旭川聾学校 小学部 三年

大谷 采映

五月十一日に北さいとガーデンに行きました。朝の天気は、くも

りでしたが、遠足に行けるのが楽しみでした。

バスにのって、買い物公園に行きました。バスのまどからお姉ちゃんのごとをしているホテルが見えました。見られてうれしかったです。

買い物公園に行きました。一番むずかしかったミッションは、ミスタードーナツのマークをさがすことです。と中雨がポツポツふつてきてさんねんでした。

旭川えきで、家ぐをさがしました。いすとテーブルを見つけました。いすにすわってみたらしつかり作られていました。

北さいとガーデンを歩いて、花を見ました。白いせいせんと白と赤のチューリップがさいていました。たくさんきれいな花が見られてよかったです。

雨が止んだけど風が強くなってきました。花は、ゆれてくきがおれそうでした。わたしたちは、北さいとガーデンセンターの中にいました。センターの中で花びらの先がとがっていて、きれいな黄色のチューリップをかきました。雨で直せつ花を見てかけなかったけど、しゃしんを見ながら上手にかけてうれしかったです。

と中で雨がふったけど遠足に行けて、よかったです。今まで見たことがないきれいな黄色のチューリップをかいことがわすれられない思い出になりました。

来年は、晴れてあたたかくなってほしいです。

「世界に誇れ！日本のアニメ」

北海道旭川聾学校 中学部 三年

今野 優人

近年、日本のアニメの多くが海外でも人気になっているというニュースを、よく見るようになりました。どうして日本のアニメは海外でも人気になったのでしょうか。

海外のアニメと比較すると日本のアニメは、ストーリー・原画・音楽など、あらゆる要素においてクオリティーが高いからだといわれています。

しかし、人気の理由はそれだけではないようです。調べてみると、日本のアニメから多くのことを学んだという人が多く、僕は人気の理由はそこにあるのではと考えました。

海外の漫画は基本的に子供向けのものが多いようです。しかし、日本の漫画はストーリーに、複雑な人の心の動きが描かれており、大人も楽しめる内容になっています。そうした漫画をアニメにすることで、表情や動きがつき、気持ちを実感しやすく、子どもでも楽しむことができるようになります。

僕は「ワンピース」というアニメを見て、どんなピンチでも仲間のこととは決して見捨てない主人公に憧れを抱きました。「スラムダンク」では、ある人物の言葉から諦めないことの大切さを学びました。

僕はアニメから、様々な生き方を学んでいることに気づきました。アニメは道徳の授業と似ていると思いました。

どうして、日本のアニメにはそのような特徴があるのでしょうか。そこには、日本人の性格が関係していると思います。日本は外国と比べてルールに厳しいため、細部にこだわる完璧主義な人が多いようです。だからこそ、クオリティーの高い作品を作ることができるのでしょうか。

また、日本には集団という意識を大切にする文化があります。そのため自然と相手の思いを考えたり、空気を読んだりといった、円滑なコミュニケーションの方法を学ぶことができます。そういった文化が複雑なストーリーを作っていると思います。

日本アニメが人気の理由を知り、僕は日本の文化を誇りに思いました。海外から日本を見ることで、今までは好きではなかった日本の文化の良さに気づくことができました。みなさんも視点を変えて物事を見てみませんか。

## 「プール学しゅう」

北海道帯広聾学校 小学部 二年

齊藤 明那

わたしは、学校からめむろプールに行きました。プールまでとお

いので、バスによってプールに行きました。

プールにつきました。さっそく、水ぎにきがえました。水ぎにきがえた後、プールに入るので、体そうをしました。体そうがおわった後にプールに入りました。プールでは、水の中にしずんだり、にんじやあるきをしたり、バタ足をしたり、いろいろなことをしました。わたしは、少しバタ足ができるようになりました。わたしは、「すこし、およげるようになって、うれしいな。」

と、思いました。プールに入りおわって、きがえました。

おひるごはんは、お弁当をたべました。お弁当がおいしかったです。

わたしは、

「プール学しゅうが楽しかったから、また、来年も、プール学しゅうに行きたいな。」

と思いました。

## 「学習発表会はじまる」

北海道帯広聾学校 中学部 三年

道田 楓

今年から学芸会から学習発表会に変わり、今回やることになった

演劇は「Our way」と言うタイトルになりました。今回僕は、

教員役とナレーターをすることになりました。僕は初めて台本を見た時、頑張ればいけるな、と思いながら練習をしていましたが、やっているうちに難しいなと感じました。なぜかと言うと、自分は先生役なので敬語を使うセリフが多く、それに加えて手話を覚える必要があったので、ややこしくなり、やはり今回も難しいな、と思いました。自分は、敬語をあまり使うことができないので、先生役のセリフは覚えづらかったです。

僕が苦手と感じたセリフが三つありました。まずは先生役のセリフで、「どうだろうか。」「どうですか？」の表現がややこしく、何度もここでつまづいていました。つまりここを乗り越えれば良いだけなのですが、他にも苦手なところがあり、僕にとっては第一関門でした。二つ目は、ナレーターのセリフが僕にとっての第二関門でした。三つ目は、教員のセリフの長さです。手話の表現方法が難しく、学習発表会中学部の演劇を締めくくる最後のセリフではプレッシャーがあり、僕にとっての第三関門でした。この三つの苦手なポイントを、間違えないようにたくさん練習するようにしました。

最初の学習発表会練習の時は、まだ台本を見ないとわからなかったり、手話も全くだきなかったです。それから一週間ぐらい練習をしたら、台本はまだ必要だけど手話の方は、ほとんど覚える事ができました。しかし、この時はまだ作られていなかった最後のシーンが完成して、その中に僕が苦手だと思った三つ目が入っていたので、覚えるのが難しかったです。練習を積み重ねて、総練習になりました。

た。たくさん練習をしましたが、それでもセリフを忘れる時もあったので、本番前にはセリフを間違わないようにしたい、と言う気持ちでやっていました。

そして学習発表会当日、小学部低学年、小学部高学年、幼稚部が終わりいざ出番、と思うと緊張してきましたが、幕が開きナレーターのセリフを言っている時、なぜかさつきまで緊張していたのがなくなり、劇に集中することができました。苦手だったセリフもなんとか失敗しないで言うことができ、最後の所も危うかったけど、なんとか言い切る事ができました。最初はどうかと思いましたが、結果的に成功して嬉しかったです。またいい思い出が増えました。

1、2年生と一緒に学校の学校生活もあと少ししかないので、残りの時間を楽しみたいと思います。

### 「宿泊研修」

北海道釧路鶴野支援学校 中学部 三年

佐々木 陽愛

五月二十五日と二十六日に中二、中三のみんなで、宿泊研修に行きました。二日間で特に思い出に残ったことが三つあります。

一つ目は、トレジャーハントラリーです。あまり一緒になった事がないチーム分けで、緊張したけど、わくわくしました。三人で協

力して課題を解く事はとても疲れたけど、色々経験できていい思い出になりました。三人で協力できてよかったです。またこのメンバーで遊んだり話したりできる事を楽しみにしています。

二つ目は、キャンプファイヤーです。最初中でやると聞いた時は、室内でも火をつけれるのかと疑問に思っていました。みんなで、頑張つて木を組んだり、話し合ったりして、木に火をつけました。すると火がつかまりました。室内でもキャンプファイヤーをする事ができるんだと不思議に思いました。でもみんなで協力できた事がよかったですと思いました。

その後に先生方も一緒にハンカチ落としのゲームをしました。本気で走ったり体力を使ったりして楽しめたのがいい思い出になりました。

ハンカチ落としの後はみんなでマイムマイムを踊りました。ハンカチ落としをした後で疲れていたけど先生方も一緒にできる機会はあまりなかったので、すごく不思議な感じがしました。でも、すごく楽しくてあつという間に終わってしまいました。またみんなで遊んだりマイムマイムを踊れる日が楽しみです。

ダンスをした後はみんなで誓いの言葉を言いました。一人一人が将来の事や勉強の事を誓っていて、将来が楽しみだなとわくわくしました。私は高校受験合格する事を誓いました。なので合格できるように頑張ります。キャンプファイヤーは初めてでわくわくしたしこのメンバーと一緒にできた事がすごく嬉しかったです。

三つ目は、お菓子パーティーをした事です。お風呂から上がった後に、部屋でお菓子パーティーをしました。みんなのお菓子を紹介し合ったり、交換したり、初めての集合写真を撮ったりして、とても幸せな時間でした。その後に、先生方も一緒にお菓子を食べたり、UNOをしたりして最高に楽しかったです。その時に、先生方とみんなですっぱいガムを食べました。三つの中の一つがすっぱいというお菓子です。すっぱいガムがあたつたのは教頭先生、S先生、Iちゃんでした。とてもすっぱそうな反応がすごく面白かったです。こうやってみんなでお菓子パーティーができてとても幸せだと感じました。次は、みんなでお酒をのむのを楽しみにしています。私はこの二日間とても楽しくて、時間があつという間に感じました。みんなで協力してみんな仲よくなった感じがしてすごく嬉しかったです。

Rちゃんと私は中3なので、宿泊研修などは終わってしまったけど、みんなで一緒に過ごした二日間は一生の思い出です。

## 「体育大会」

北海道兩竜高等養護学校 二年

北岡 優月

当日までに、まず種目に出る選手が発表されました。自分の名前

が入っていたのは千五百メートルでした。正直なところ、夢でも見ているのかと思いました。

そこから練習が始まり、足の着地の仕方や呼吸法を学びながら一所懸命練習に励みました。そのせいかずつと筋肉痛で大変でした。

当日になり、筋肉痛はだいたいなくなり、体育大会が始まりました。百メートルを走り、サイコロでGO！を応援したりして、いよいよ千、千五百メートルの番が来ました。女子は四位と五位になりました。男子の番になり、六周しました。走っている間は練習で培った呼吸法などをしっかり意識して、練習よりいいペースで走れました。順位は六位でした。

リレーも終わり、二年の総合点は百五十点で二位でした。あと十点くらい取れば一位でした。くやしかったです。来年は一位を取れるようにがんばりたいです。

### 「去年からのリベンジの体育大会」

北海道雨竜高等養護学校 二年

佐々木 琴美

今年も始まりました体育大会。去年はボロ負けだったけど今年は二位になり、リベンジ果たせたかなーって思います！私が一番リベンジを果たせたと思うのは玉入れて今年全部で二百十個入りま

した。ちなみに去年は八十四個でした。去年の倍以上入りました。玉入れは前半後半があります。今年は前半と後半両方に出ました。前半は玉が九十七個入って、後半が百十三個入りました。ちなみに一年生の合計二百三十四個そして三年生の合計百八十五個入りました。

一位ではなかったけど去年の玉の個数を越せて嬉しかったです。皆が練習をちゃんとして最後まで諦めなかったから、この結果になりました。練習では玉が入らなかった時もあれば、結構入った時もありました。入らなかったときは「本番大丈夫かなー」って思いました。風向きも考えながら計算して玉を入れることができました。次に百メートルの話をしたいと思います。

去年の体育大会での百メートルは二十一秒でしたが、今年のタイムは十八秒でした。去年よりも足が速くなっていて自分でもびっくりしました。百メートルの練習の時は十九秒でしたが、先生に走り方のコツを教わりながらそれを実際にやってみたところ、十九秒から十八秒になりました。練習の時は走るのがうまくいなくて泣くこともありました。その時はマジで悔しかったです。でもその後靴をスニーカーから運動靴に変えてからは、走るのが楽になったので靴を変えて良かったと思いました。

次にリレーの話をしたいと思います。リレーは今年初めて参加しました。私は青チームとして頑張りました。足にあまり自信がなかったのが最初は不安でしかなかったです。でもなんとか最後まで走

り切ることができました。一緒に走った先輩後輩を抜かせることはできなかったけど、精一杯頑張れたから良かったと思います。総練習では二年生が紫も青も勝っていたけど本番は勝てなかったです。なぜなら三年生も一年生も総練習は補欠の人がいっぱいいて、本番と同じメンバーじゃなかったから。だからちよつとの差が出てきました。でも三位になれたので良かったです！

### 「現場実習で学んだこと」

北海道札幌高等養護学校 クリーニング科 三年

M・S

私はラインズ麻生で実習を行う為にまずは体験に行きました。ここでの温かい職場の雰囲気、明るい挨拶に心を打たれ、私はラインズ麻生での実習を行うことを決意しました。ラインズ麻生での実習も無事に決まり、実習までどんな風に働くのか想像しながら、その日待ちました。

とうとうその日がやってきました。後ろ向きなイメージを考えてしまうこともありましたが、自分から希望した仕事を最後まで全うに働こうと思っていました。最初の一週間は上手くいきませんでした。しかしその後、体調を崩していき、次の週から一週間休みました。次第に不甲斐ない自分を責めました。迷惑かけてばかり、また行けな

かった、自分は社会に適していないのではないか、自分が働ける訳がないと頭から次々と自分がダメだと考えることが多くなりました。そして実習を辞める決意をしました。これ以上自分がいては迷惑がかかると思ったからです。心残りはありませんでした。しかしどんな理由であれ、個人的な理由で迷惑はかけられないと思いました。

担任の先生に実習を中止したいことを伝えると先生から励ましの言葉をいただきました。「最初から完璧な人なんていない、失敗してこそひとつひとつ完璧になるんだよ。」そう聞いた私は心を打たれ、もう一度チャレンジする決心をしました。その後の二週間は無事にこなすことができ、今こうして作文を書いています。担任の先生には今も感謝しています。

この現場実習で、私は「礼儀」「諦めない心」、そして「感謝する心」を学びました。今後の学校生活では、今回の現場実習で学んだことをさらに磨いていきます。より社会に通じる「社会人」になることを目指し、日々の学校生活を頑張ろうと思います。

### 「初めてのアトラクション」

北海道札幌稲穂高等支援学校 家庭総合科 三年

H・A

五月十八日、USJに行き家庭総合科の皆と一緒にジュラシック

パーク・ザ・ライドというアトラクションに乗りました。最初は、楽しく恐竜達を見て回っていくアトラクションで、色々な恐竜達を見ながらワクワクしながら進んで行ったのですが、後半になると少しずつ危険エリアに近づいていき、ついには真つ暗な倉庫に入りワクワクからドキドキに変わりました。倉庫内に入るとどんどん乗り物が上がっていき、ブザー音や恐竜の声など沢山の音が鳴り、乗り物が上に着く頃には私の心の怖さもMAXになり、ビビっていると上からすごく大きな恐竜が口を開けて大きく動き出した瞬間に、一気に乗り物が急降下しました。私はこの時心の中で「これは力を入れていないと気絶するな」と思い、全力で力を入れることに集中し、体が浮きそうになる感覚と恐怖と戦いながら急降下し一瞬で下に着いて最後には、一気に水が掛かりました。私は、水が掛かったことにより一気に力が抜けて怖さから解放されたので、初めての体験でとても楽しかったという気持ちになり、笑顔でアトラクションを終えることができました。

### 「三年生の現場実習を終えて」

北海道札幌あいの里高等支援学校 食品デザイン科

三年 四組 A・K

私は、四週間、百円ショップで実習を行いました。

実習初日、少し緊張した気持ちもありましたが、皆さんにあたたかく迎えていただき、本当に楽しくお仕事ができました。

四週間の間、たくさんのお仕事をさせていただきましたが、店内が広く、とても品数が多いため、品出しが大変でした。意外と力が必要な仕事も多く、特に大きな台車にたくさん段ボールを積んで運ぶゴミ捨てはとても重たく大変でした。そんな実習でしたが、楽しかったことやうれしかったこともたくさんで、何よりも、職場の皆さんの何気ない声かけや気遣い、そして、お客様に「素敵だね」と接客を褒めていただけただけですが、頑張る力になりました。今後の学校生活でもすべての人に対する感謝の気持ちと気遣いを忘れず、日々を過ごしていきたいと思えます。

### 「大切な人」

北海道小樽高等支援学校環境流通サポート科 三年 A組

松浦 楓

私が三学年〇期現場実習を終えて一週間ほど過ぎた頃、家にひとつの電話が入りました。そのあと母から私に電話の内容が伝えられました。それは希望していた実習先での採用が叶わなかったことです。それを聞いて私は胸に穴が空いたような不思議な気持ちになりました。

私が小樽高等支援学校に入学しようと思ったのは中学二年生の時でした。そのころの私は些細なことで怒ったり、クヨクヨしたり、泣いたりしていました。私は一人で生活できるようにすると決心して寄宿舎がある小樽高等支援学校に入学しようと決めました。受験勉強を頑張り、合格したときは憧れの学校に行けるとほっとしました。

学校の授業や作業、寄宿舎での生活に慣れるのに最初は苦労しました。その中で感情のコントロールができないときがありました。そんなときにいつも助けてくれた先生がいました。

それは三年間、担任をしてくれた先生です。

授業や作業のときに感情のコントロールができずにいた私の側にずっといて、優しい言葉を掛けてくれたり、私が話ができるのを待って、話を聞いてくれたりしました。そして感情のコントロールの仕方を教えてくれました。おかげで短時間で心を休め、落ち着くことができるようになりました。入学した頃より感情のコントロールができるようになり、学校や寄宿舎での生活に慣れてきました。

そんな中、いよいよ三学期現場実習が始まりました。実習先は二学期〇期現場実習から行っている場所で、仕事の内容は丁合と施設外就労でホテルの清掃をしました。

私は、元氣よく挨拶をすることを心掛け、生活リズムを崩さないようにしました。それでも、集中力が足りないときや、手早く作業ができないときがありました。それでも休まずに実習に行きました。

そして私にはもう一人大切な人がいます。それは私の母です。

私の母は、いつも私を助けてくれます。辛いときには話を聞いてくれたり、アドバイスをくれたりします。ときにはきびしさもありますが、いつも私のことを思って、優しく接してくれます。とても優しい母のもとに生まれた私はとても幸せで、感謝しています。

ます。

私は、三学期〇期現場実習での採用は、叶いませんでしたが、それでも、今の生活を頑張ろうと意識しています。たとえ自分の決めた道が叶わなくても、道はたくさんあります。

だから皆さんも辛いことがあっても大切な人と共にあゆみを止めないでください。

私もあゆみを止めず、大切な人と共に進んでいきます。

### 「入学してからの自分」

北海道函館高等支援学校 生産技術科 一年

高田 風輝

入学したときは、緊張と期待でいっぱいでした。クラスメイトはどんな感じか、分からないことだらけで、戸惑いながらも新しい学校生活に胸が躍りました。

入学してからの自分は正直まだ、変わったという実感がわきません。ですが、中学生までは、体を動かすこと、運動などが嫌いで、なるべくやらないように避けていたと思います。高校生になってからは、部活に入って少しでも体を動かすという考え方に変わっていききました。

まだまだ、体力はなく、すぐ疲れるけれど、卒業までには、体力をつけて就職の幅を広げることが一つの目標です。

高校に入って思ったことは、周りの人に助けられてきたことです。例えば、祖母です。毎日学校の送り迎えをしてくれています。きちんとバスで行かなければと思っても、つつい甘えてしまいます。そういう考え方も変えていって自立しなければと思っています。毎日ご飯を用意してくれる母親、支えてくれてる人に少しでも恩返しができるように頑張っていきたいと思います。これが二つ目の目標です。

今までは、将来のことや夢のことなどあまり考えてこなかったけれど、猫二匹の世話をしている、「動物に関わる仕事に就けるといいな」と思いました。

車の免許をとること、一人暮らしをすることなど、まだまだやりたいことがたくさんあります。そのためには、覚えなくてはならないことがたくさんあるので、少し不安だけでも、高校生活でいろいろ学びたいと思います。

これから二年生、三年生になって目標が変わっても、あきらめな

いで今ある目標よりも更に大きな目標を立てられるように頑張っていきたいと思います。

### 「働く人になるために」

北海道北斗高等支援学校 環境・流通サポート科 一年

大畑 直輝

四月十一日に私は北斗高等支援学校に入学しました。私が北斗高等支援学校を選んだ理由は、元々清掃に興味があつて、他の学校には清掃の科がなかったからです。

入学して初めての給食当番だった時、エプロンがうまく着けられず、態度が悪くなつてしまいました。今思えば、すぐに先生やクラスの人みんなに助けを求めればよかったのですが、当時の私は、「助けを求めたら負け」と思つてしまい、結局エプロンを着けることができなまま配膳ができずに終わつてしまいました。その後、先生に注意され、そこから自分の考えが少しずつ変わっていきました。

助けを求められなかったことは、実習でもありました。初めての掃除機の実習で、コードを巻けずにいた時に、助けを求めることができませんでした。しかし、失敗する経験を重ねるうちに、少しずつ助けを求めることができるようになった気がします。困ったときに、そのままにしてしまうと、作業が遅れてしまうので、すぐに助

けを求めることができるようになったのだと思います。

北斗高等支援学校では、校外に行く実習が二つあります。一つ目は北斗市内の色々な施設などで清掃させていただくデュアル実習です。私は、デュアル実習で初めて資機材を準備した時に、何か聞かれても自分が分からないことは無視をしていました。しかし、このままではいけないと思って声を出し、回数を重ねるうちに慣れてきて、早く準備ができるようになりました。

私がデュアル実習で一番難しいと感じたことは、仲間との連携です。その理由は、受け身がちになってしまつて、自分から声を出せない時があるからです。最近だと、資機材を準備している時に声を掛け合わないで準備してしまい、いつもより遅くなってしまいました。このことを反省してこれからの準備に生かしたいです

校外で行う二つ目の実習はWTWです。この実習は、五日間トマトの選別所で働きます。実際の職場で一週間働くので、働く流れや大変さを知ることができるよい機会になります。

作業内容は幾つかあります。中でも私が楽しかったのは、トマトの箱詰めでした。この作業は流れてくるトマトをサイズや色別に分けて箱に詰める作業です。この作業が楽しいと思った理由は、急いで箱に詰めないと、トマトがあふれて詰まってしまう可能性があるからです。常に緊張してやらなくてはならず、スリルがあつたからです。その他にも楽しいと感じる作業がありました。バンド掛け作業です。トマトの入った箱が流れてきて、箱を五段積んでバンドを掛け

る作業ですが、急ぎながらも一つ一つ作り上げていくところがとても自分に合っていて楽しかったです。

十一月になり、いよいよ職場実習が始まりました。この職場実習は、実際の企業に八日間実習に行つて、将来のために働く厳しさや大変さを知るとともに、やりがいや楽しさを知ることができる貴重な機会となりました。

介護施設で色々な作業をし、特に印象に残っているのは、利用者様のお部屋を清掃しているときに、利用者様が「がんばっているね」と声をかけてくれたことです。とても嬉しくなり、その後の作業も素早くできました。しかし、作業が終わつた後、担当の方がいらつしやらず、どうしたらよいか分からなくなり、担当の方が戻るまで手を止めてしまい、時間を無駄にしまいました。このままではいけないと考え、その後は、積極的に伝えるようにしました。そして最終日には担当ではない方にも報告することができ、時間を無駄にせずに、作業時間を多く確保することができました。

私はこの職場実習であいさつを大事にしました。あいさつは私の得意なことでもあつたので、職場でも元気にあいさつをしていました。しかし、あいさつをしているうちに、アドバイスを受けました。私が「こんにちは」とあいさつをすると、帰ってきたあいさつは、「おはようございます」でした。その時に、「職場に合わせてあいさつしてね」とアドバイスを受け、その後は切り替えて、あいさつの使い分けができるようになりました。

最終日には、職場にも慣れ、利用者様ともあいさつができるよう

になり、利用者様からも、「今日で最後の？さびしいね」と言っていたいただき、とても嬉しい気持ちになりました。そして、職員さんもお別れのあいさつをして職場実習が終わりました。

入学してから今に至るまで、私は成長してきたと思います。エプロン事件では態度が悪くなってしまったり、初めての実習では、受け身になってしまって周りとの連携がうまくいかなかったりしました。しかし、今までの学校生活や実習を通して、困ったらすぐに先生に聞けるようになり、自分の考えを口に出すこともできるようになりました。

しかし、まだ足りないと思う所があります。まず、ていねいに作業ができていないことです。窓清掃をした時に、自分では気付けませんでしたが、先生に水滴が残っているよと注意されたので、次からは自分で気付けるようになりたいです。

また、私はめんどくさい作業を人任せにってしまう時があります。最近では、資機材の予洗いをする時に、いつもバケツやタオル、スクイージーなどの予洗いをしているので、これからは、みんながやりたがらないものを積的にやっていきたいです。

私に足りないところは他にもたくさんありますが、これからの実習や普段の学校生活を通して克服していき、「働く人」になれるように頑張っていけます。

## 「見学旅行の思い出」

北海道紋別高等養護学校 普通科 三年

岩崎 美幸

五月十七日から十九日の三日間、東京都と千葉県に見学旅行に行ってきました。私はこの見学旅行を楽しみにしていました。なので、三日間がどんな旅行になるのかワクワクした気持ちでいっぱいでした。

一日目は、まず初めに東京スカイツリーに行きました。想像していたよりも高くてびっくりしました。

まず、三年生のみんなで、展望デッキに行くのに四十人乗りのエレベーターに乗りました。「四十人もこのエレベーターに乗れるんだ！」「広いエレベーターだな！」と思いました。こんなにつつめ状態のエレベーターに乗ることはないので、新鮮な気持ちになりました。

展望デッキに着いて、東京の景色がすごくきれいでした。透けガラスのところにも立って、「わあー！すごい！下がすごく見える！」と思いました。念願だった透けガラスの所に立てたこと、その所で写真を撮ることもでき嬉しかったです。良い思い出になりました。

十七時ごろから各グループごとの東京自主研修が始まりました。Bグループはまず東京ソラマチの中にある「すみだ水族館」に行きました。チンアナゴやペンギン、カメなどたくさん種類の動物や

魚を見ることができ嬉しかったです！こんなにたくさん動物や魚を水族館で見たのは初めてです。大好きなカメラや今回初めて見たチンアナゴを見る事ができたことも嬉しかったです！可愛かったです。「すみだ水族館」に行くことができ良い思い出になりました。

二日目に入り、ドイツニーランドに行きました。午前中は各学科ごとでの研修でした。

ドイツニーランドに入り、買い物をしました。両親へのお土産にふりかけ、自分用にハンディファン、カチューシャを買いました。この日はすごく暑くファンを買って良かったなと思いました。風が当たってすごく涼しかったです。しかも七色に光る扇風機で可愛かったです。

普通科はまずスプラッシュマウンテンに乗りました。最前列に乗ることができ嬉しかったです。最後落ちる時に水しぶきがすごいかって髪や服がビチョビチョになりました。すごく涼しく気持ちよかったです。みんな、「ビショビショになったね！楽しかったね！」とアトラクションに乗り終わってから話しました。最後落ちる時に隣にいたN君の腕が私の顔や肩にぶつかっていました。N君はすごく楽しんでいたので自分の腕が私にぶつかっていることに気づいていませんでした。そのことは見学旅行から帰ってきてから普通科の生徒と先生方で話しているのを聞いて、N君本人はそのことに気付きました。今となっては写真を見るたびに思い出してクス

ツと笑える良い思い出です。

午後になり、次はグループごとでの研修になりました。Bグループは、まずビックサンダーマウンテンに乗りました。スリル満点で荷物が落ちないかどうか心配しながら乗りました。隣に乗っていたKちゃんがすごく絶叫していました。ビックサンダーマウンテンはすごく楽しかったです。

その後、モンスターズ・インクのアトラクションに乗りました。ライトでモンスターを当てたりして楽しかったです。その後、モンスターズ・インクのショップに行き、たくさんグッズを買って満足しました。ただ、値段を見ずに買ったため、合計金額が八千円いって、「え！？うそ！八千！？思っていたよりも値段高い…。値段見ずに買ったからかな。」と驚きました。

その後、ポリネシアテラスに行きロコモコセットを食べました。すごくおいしかったです。ワールドバザールではお土産をたくさん買ってよかったです。夜になり、シンデレラ城がライトアップされていて綺麗でした。ドイツニーランドで長い時間遊ぶことができても楽しかったです。また行きたいなと思いました。四十周年という特別な一年に行けてすごく嬉しくたくさん良い思い出ができました。

三日目、羽田空港で買い物をしました。先生方やクラスメイト、部活のメンバー、舎室の後輩にお土産を買いました。お目当ての焼きマシユマロタルト・スモアやカレーあらねなど買うことができ良

かったです。十七日から十九日までの三日間、たくさん思い出をつくることができました。あつという間の三日間だったなと思うほど充実した楽しい旅行になりました。

将来、自分で働いて貯めたお金で友達や家族と一緒にまたスカイツリーやディズニールランドなどの観光スポットに行き楽しんできたいです。

今後の残りの学校生活で三つのことを頑張っていきたいと思えます。一つ目は社会人になって働く時まで自分に足りない力や自分の希望する職業に必要な力をつけていきたいです。例えば、人とのコミュニケーション、どのような時でも安定して取り組む力、すぐ相談する力です。残り少ない学校生活で力をつけていけるように日々努力していきたいです。二つ目は余暇の充実についてです。余暇の種類が少ないので、一人でできる余暇や人と一緒にできる余暇、飽きずにとり組める余暇、心身をリフレッシュさせたりストレスを発散させれるようにしたいです。卒業までに余暇を増やしていけるように自分で見つけたり周りの人に聞いたりしていきたいです。三つ目は後悔や心残りが無いように日々を全力で楽しむことです。最後の年も良い一年にしたいので一日一日を大切に周りの人を大切にしながら全力で毎日楽しく過ごしていきます。

## 「最後の前日祭と学校祭」

北海道中札内高等養護学校

家庭総合科 三年

斉藤 綾花

最初に私達は前日祭の時に、前日祭でダンスを踊ることにしました。AKB48の「フライングゲット」とPSYのカンナムスタイルの二曲を踊りました。

最後の前日祭になるので私達は、より良いダンスを踊れるように前提実習が終わった後に、すぐに踊るダンスを決めて練習しました。最初の時は慣れない動きと実習あけでの練習だったので、私には踊り切るのは難しいのでは？と思っていました。

私は、実習明けでの練習だったので皆と2週間の差からのスタートでした。ここから皆と空いてる時間で練習の日々になりました。最初の一週間は、覚えるので精一杯でした。それから、家で動画をしながらの練習が始まりました。日々の練習のおかげで前日祭が始まる一週間前には、形になっていました。そこからクラスの人と細かいところも練習し、本番に備えていました。最終的には、サンダラスとネクタイを身につけ、本番に挑みました。本番では、フライングゲットの最後の方で間違ってしまったので、私にとつては全力を尽くすことができました。その後、アンコールがありました。皆で踊りきることができました。

次に、学校祭では、私は、お化け屋敷グループになりみんなで相

談して私達のテーマは、「程よい怖さ」になりました。程よい怖さでしたが、皆が準備していくごとに程よい怖さとは？と思いましたが、そこはあまり考えず準備を進めていました。本番に備えて自分の格好と立ち位置を確認し、うめき声の練習も密かに練習していました。本番では、私の母が一番目できたのは驚きました。母は、私に気づくと手を振ってくれました。正直気まずかったです。ちなみに私の家族は母と兄が来てくれました。お化け屋敷も私にとってはいまき、最高の学校祭にすることができました。帰りは母と帰りました。

最後に、人生最後ということもあり、美術部展もあったので私の思う最高傑作を飾ることができました。とても満足な気分になりましたが、私の母は、キャンバスしか見ていなかったらしく、私の他の作品を見てくれませんでした。悲しかったです。ちなみに兄はそもそも美術部展の作品を見ていなかったらしいです。

## 「見学旅行の思い出」

北海道中標津支援学校 高等部 三年

万丈 理子

私が見学旅行で一番思い出に残っているのは、デイズニーのパレードを見たことです。デイズニーは、初めて行ったのですが、まる

で本当に魔法にかかったように何もかもが楽しかったです。

最初はグループのみんなで購入ものなどをしました。かわいいグッズがたくさんあってどれを買うかとても悩みました。お昼ご飯になり、事前に調べていた「ヒューイ・デューイ・ルイのグッドタイム・カフェ」のエビカツバーガーを食べました。とてもおいしかったです。友達と先生たちは他のメニューを頼んでいましたが、どれもおいしそうでした。その後、私は先生と一緒に買い物に行きました。ずっと前からSNSで見つけてほしかったオズワルドのカチューシャを買ってとても嬉しかったです。

グループのみんなと合流した後にお昼のパレードを見ました。好きなキャラクターを見ることができて嬉しかったです。アトラクションには、乗らない予定でしたが、たくさん乗りました。乗り物は怖いイメージがあったのですが、いざ体験してみると想像していた以上に楽しくて、全てのアトラクションに乗ってみたいになりました。一番楽しかったのは、「プーさんのハニーハント」です。待ち時間の間も、プーさんのストーリーやキャラクターの絵が壁に描かれていて、待ち時間があっという間に感じました。

夜ご飯では、カツカレーを食べました。思っていたよりも辛くてびっくりしました。最後に夜のパレードを見たのですが、言葉が出ないほどとてもキレイでした。暗かったのでしっかりと見ることができて、また見たいと思いました。次は友達と行きたいです。

## 「楽しかった社会見学」

北海道夕張高等養護学校 三年

K・D

みんなでちとせくうこうエスコンフィールドに行きました。はじめてのエスコンフィールドのやきゅうじょうのいすにすわってみんなでしゃしんをとつてよかったです。

ちとせくうこうで保安検査場を見学して先生の話を聞いた後フードコートに行つて、伊藤先生と大心のチャーシューラーメンを食べました。

バスで橋本先生と、一緒にトランプをやりました。とても楽しかったです。また橋本先生とやりたいです。

## 『うまれてきてくれてありがとう』を読んで」

北海道岩見沢高等養護学校 一年

松浦 希央

私が物心ついたときには、この絵本は私の本棚に置かれていました。今まで生きてきて十六年間、何度も読み返して来たので、これから先の人生でも大切にしたい一冊になるのだろうと思います。この絵本は、私が今までの人生の中で両親に最初に買ってもらった大

切な絵本です。

この物語は、神様に「うまれてきていいよ。」と言われた赤ちゃんの僕が、お母さんを見つげるために、色々な動物の赤ちゃん達に話しかけていくという内容です。そして、その動物の赤ちゃん達がそれぞれのお母さんに「うまれてきてくれてありがとう。」と言われているのを見て、自分もそう言われたい一心でお母さん探しを頑張るといふ話です。

この絵本を読んで良いと思ったところは、色々な動物のお母さん達が自分の子どもに、愛情いっぱいに接していて、さらに、「うまれてきてくれてありがとう。」と素敵な言葉をかけているところです。お母さんから愛情をいっぱいもらい、素敵な言葉をかけてもらえたら、子どもはすごく嬉しいです。私自身、誕生日に両親から「うまれてきてくれてありがとう。」と言われたことがあるのですが、その時とても嬉しかったのを覚えています。

私もし主人公の立場だったら、自分のお母さんに会えていない中で、色々な動物の赤ちゃん達がお母さんにたくさん愛情をもらっている姿を見たら、途中で心が折れてしまうかもしれません。お母さんを見つげることを諦めてしまうかもしれません。それなのに、主人公の僕の、最後まで諦めず無事にお母さんに会えた姿を見て、とても感動しました。

私は現段階で、将来親になることを考えていません。想像もしていないし、できません。しかし、両親や姉、いとこ達、友達や先輩

に「うまれてきてくれてありがとう。」と言われたときに、すごく嬉しかったことが忘れられません。だから、大切な人達に少しでも同じ気持ちになってほしい、自分自身が大切だと思っていることが伝わってほしいという想いがあります。大切な人の誕生日やふとした瞬間に、「うまれてきてくれてありがとう。」と伝えるようにしています。

今回、絵本を読み返したことで、この言葉を大切な人に伝えることの大切さを再度確認しました。これからも、普段自分の周りにいてくれる大切な人達に伝えていこうと思います。

そして、自分もし将来親になることがあれば、その子どもにもたくさん伝えて、愛情いっぱい育てて生きたいなと思いました。

## 「うんどうかい こんどはかちたいな」

北海道真駒内養護学校 小学部 二年

あさくら みちか

てがみ がまくんとかえるくんのがみ たまいれ ぜんぶあわせたら まけちゃったけど てがみは しろがかった  
でも ぜんぶのくらすあわせたら あかがかった  
しろが まけちゃった  
たのしかった

きんちようした

いもうとが うるさかった

おねえちゃんも みにきてほしかった

こんどは かちたい

たぶん ぽぼは ぜったい ないてた

ないてないって いったけど たぶん ないてました

めっちゃ いもうとが いえでも うるさい

おねえちゃんも じゅくで みにこれなかったけど たぶん ま

まが しゃしんを みせたかもしれない

ぽぼ たぶん いえにかえったら ないてたと おもうかも

くやしかったけど こんどは 3ねんせいになったら かちたい

まけないように がんばる

ほんきだす

たぶん ほんきでしたら ぽぼが おおなき

たぶん いもうとが うるさくする

ままに けいたいを みせると たぶん いう

こんどは おねえちゃんも みにきて ほしい

みにこれたら きてね

ぜったい きてほしいな

これたらかもだけど きてね

これたらで いいからね

おばあちゃんも じむがなかったら うんどうかい みてね

いとこ さつぼろにきたら みにきてね

おばあちゃんと おじいちゃんと みにきてね

さつぼろに これなかったら しょうがないから おばあちゃん

と おじいちゃん たまに とうきょうにいくから おじいちゃん

んと おばあちゃんが うんどうかいに これたらで とうきよ

ういったらしゃしんを みせてもらってね

たぶん いっぱい とうがとかも とるかもしれないから どう

がも みせてもらってね

いとこのともだち よんできても いいよ

よびたかったら よんでね

よべなかったら ともだちに じじたちが とつたしゃしんを

みせてあげて

いとこのばばと いっしょに みにきてね

たぶん たまいれだから どっちがかつのか おうえんしててね

がんばるね

3ねんせいになったらさ しろ あか どっちかな

わかんないけど 3ねんせいになったら わかるかもしれない

こんどは あかがいいな

ぜんぶあわせたら つぎは たぶんだけど あかかもしれないか

ら このまえみたいに ぜんぶあわせたら かちたいな

がんばるから おうえんしててね

しゃしん とつても いいよ

じぶんの けいたいでね

「高校生になったら生徒会長になりたい」

北海道真駒内養護学校 中学部 三年

木村 奈由太

僕は高校生になったらなりたいたいものがあります。それは高等部の生徒会長です。なぜならみんなを引つ張って真駒内養護学校をもつと良い学校にしたいからです。そのために、三つのことを頑張りたいと思います。

一つ目は勉強です。得意な教科だけではなく、苦手な美術も頑張ります。

二つ目は態度です。高校生として真面目な態度で過ごしていきます。

三つ目はあいさつです。特に朝のあいさつを大きな声でみんなに届けたいです。

この三つを頑張って、立派な生徒会長を目指していきます。

## 「見学旅行の思い出」

北海道拓北養護学校 中学部 三年

田中 和花

私は見学旅行で登別に行きました。

一日目はマリノパークでイルカショーを見に行きました。イルカが水槽にもぐっているところがかわいかったです。雨だから急いでニクス城に行きました。カブトガニをがんばってさわりました。お買い物でコインポーチと、自分の誕生日のイルカのキーホルダーを買いました。レストランでお弁当を食べました。ハンバーグが一番おいしくなかったです。

ホテルは滝本館にとまりました。滝本館で食べたハンバーグはおいしかったです。

二日目は、時代村でにんじやを見ました。かつこよかったです。みんなでおぼけやしきにきました。とってもこわかったです。むねがこわれそうになりました。

三日目は、滝本館でごはんを出してくれたみほさんにさようならを言いました。別れるのが悲しかったし悔しかったです。

ホテルで湯の花作りをしました。魚とハンバーグとヒトデを作りました。ねん土のような湯の花をもむところが難しかったです。

湯の花作りが終わった後、友だちのしおりにスタンプを押してあげました。しおりに思い出を書いていたらねむくなりました。バス

に乗る前えんま様といっしょに写真を撮りました。ホテルの近くにいた鹿も見ました。バスに乗って拓北養護学校につきました。楽しかったです。また時代村に行きたいです。

## 「高校生になってみて」

市立札幌山の手支援学校 高等部 一年 A組

佐藤 寛太

私は、今年高校生になりました。高校生になってから中学校と変わったことは、いくつもあります。

一つ目は、科目の選択です。中学生の時には、科目の選択がありませんでしたが、高校生になってからは、美術か書道などの教科の選択があり、とても迷いました。二、三年生でも選択する教科があり、迷っています。

二つ目は部活です。中学の頃は部活はやっていませんでしたが、高校生からやりはじめました。私は、レクリエーション部というアナログゲームをやったり、調理(アイスクリームやプリン、クレーム)をしたりする部に入りました。他にも最近、たくさんアナログゲームを買って、遊びました。とても面白かったです。この部活は、他の学校にはない珍しい部活だと思いました。

三つ目は教科が増えたことです。例えば数学が2種類になったり、

国語が2種類になったりなどがあり、教科が増えたことによって、勉強がより大変になったと思います。

このように、高校生になってから変わったことは、いろいろあります。特に勉強が大変になったので、ちゃんと勉強をしたいと思えます。